

釈迦ヶ岳・釈迦如来像の光背修理作業

◇実施日：2020年10月30日（金）晴

◇参加者：沖崎吉信、濱野兼吉、児嶋道夫、乾克己、山川治雄

梶野照雄、植平修

7名

釈迦ヶ岳（1800m）は神山（深仙宿）、前鬼・三重の滝と共に三者合一の峰中第一の行所であると「細貝記」は伝える。わけても釈迦ヶ岳は日本一の霊場で、釈迦如来が霊鷲山で説法している時の態様によく似ているので釈迦ヶ岳と呼ばれるようになったという。山頂からは晴天の日の日の出前には富士山が海上に見えるということも「日本一」の原因かもしれない。

（森沢義信氏著、大峰75靡より抜粋）

大正13年、山頂に釈迦如来立像が建った。

水嶋富三郎、中嶋一乗の両氏が発起人となり、このために設立した「大阪佛立會」によって寄進・建立された。そして大峰登山史上最強の強力と言われた岡田雅行（鬼マサ）が単独で前鬼口から「送り持ち」の方式で牛抱坂、金担ぎ坂、そして深仙からの急登の三坂を運び上げたことは皆さんご承知の通りである。

昨今、像の容姿端麗、展望抜群に加えて太尾登山口の開設、ネットの普及による情報発信などで大峰南部随一の人気となり、多くの登

山者で賑わっている。



旭エレハウスで打合せ



ハシゴを担いで出発



刈り広げられた古田の森付近



奥駈道の標識を交換



像にハシゴを架ける



スリングで固定

10月25日（日）釈迦ヶ岳山頂、都津門、深仙宿の3ヶ所に看板設置と登山道の笹刈りのため19名で訪れたが、その際山頂で

誰からともなく「光背が手前に傾いている、上のボルトが抜けている。下の継ぎ目もボルトがない」と声が上がった。

折からの風で光背は大きく前後に揺れている。像の高さは3.6mあって、その最上部のためボルトが抜け落ちたのか折れて一部が残っているのかはよく判らなかつた。いずれにしても大変なことになっている。

このまま放置はできないし、これを修理する人も思いつかない。じゃあ我々がやるしかないか。この後下山中も、車の中でも、帰宅して布団に入ってから頭から離れない。足場を組む必要があるのか？ハシゴを架けて像は大丈夫か？安全は確保できるか？等、我々で修理できるかを考え続けた。とにかくやってみてその結果で製造元の大谷製造さんに相談・お願いすることで決行すべきとの結論に至った。

背中を押してくれたのは児嶋さんだ。翌朝8時頃、トラックに自作のハシゴを積んでやってきた。「このハシゴを山頂まで運ぶ、使う工具やボルトは俺が用意する。今度の金曜日10月30日に修理に行く」と言って帰っていった。

急な決定だったが、7名の皆さんが呼応して集まってくれた。

当日早朝6時過ぎに新宮を出て8時前に旭口で合流、関電の旭エレハウス広場へ移動し、簡単に打ち合わせを済ませて登山口へ。

50台近くが停まっていた25日(日)とは違い駐車車両は4台のみだ。工具類は全員に分散、ハシゴと角材は交代して担ぎながら山頂へ向かう。ハシゴは約4mと長いため3時間くらいかかると思っていたが、普段と殆ど同じ時間(2時間半)で山頂に着いた。早速作業に着手する。途中、古田の森付近は昨日榊本君が笹刈りをした

ので、広く歩きやすい道に変わっていた。

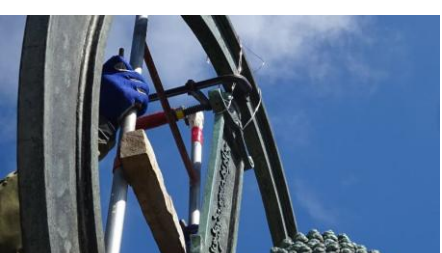
(記；沖崎)



ハーネス装着



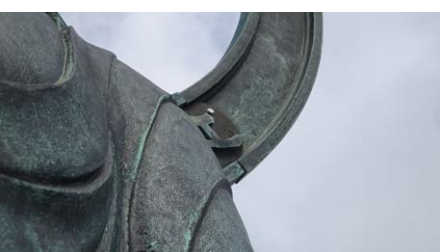
角材で光背を上げる



クランプではめ込む



ボルトを締める



光背の接続部



元通りの姿に

26日に沖崎さんから「30日に釈迦像の修理に行く」と連絡があり、すぐに植平さんにご都合を聞いてみると「行きます」との返事を頂いた。旭口までは2時間弱なので余裕を見て6時少し前に家を出た。大塔の道の駅でトイレを済ませると植平さんから「旭口に着いた」と連絡があった。旭口で植平さんと落ちあい、新宮組の到着を待つ。植平さんは太尾登山口からのルートは初めてで、そう、
「いつも奥駈道から眺めていたあの尾根を歩ける」とワクワクして朝早く目が覚めたらしい。

登山口を9時前に出発。奥駈道三差路の腐った標識を交換、かくし水の方向を示す標識を付けて山頂に向かう。

山頂には先着していた植平さんが作業の主体となる。ハシゴを像の背面に立てて上下二カ所をスリングで固定する。念のため植平さんにはハーネスを着けて頂いた。



は穴だけで光背にタップが切つてある、ナットは使われていない」とのことである。タップが何ミリか確認するため、8mmのボルトを入れてみるとピッタリはまる。元々使われていたボルトは真鍮8mmの皿マイナスネジであった。

支柱と光背の穴がうまく納まらない。光背が全体に下がっていて、光背を10mmほど持ち上げる必要が出てきた。光背の下のネジを緩め針金で支柱と光背を仮止め、児嶋さんが角材で下から光背を押し上げる。クランプを使って光背の溝に支柱をはめ込んだ。支柱が光背に入れば後はボルトを締めるだけ。ボルトはステンレスで長さが60mm以上あり、表面に飛び出して目立たないように裏側にナットを一つ入れて長さを調節した。光背の北側下の抜け落ちたボルトもステンレス製8mmの物を使った。こちらはあまり飛び出さなかったが、注意深く眺めると一本だけ白いボルトが目につく。35分で修理完了、昼食を済ませて跡片付け。全員の写真を撮って下山した。

帰宅してから五鬼助さんに修理完了を報告、ステンレスのボルトで白いのが見えるとお伝えしたが「全然気にしてないよ」と言われた。五鬼助さんも光背のぐらつきを心配していたようで、折れたらどうやって修理しよう?と考えていて修理完了を大変喜ばれていた。

(記:梶野)

行動タイム

08:10旭エレハウス↓登山口08:55→09:33不動木屋登山道分岐
↓10:10古田の森↓11:15奥駈道分岐↓11:22釈迦ヶ岳12:32→13:10古田の森↓14:15登山口↓15:07旭エレハウス

本日の参加者

下山完了

文字を足してみた

先端に登った植平さんによると「ボルトは抜け落ちている。支柱